

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月15日

【評価実施概要】

事業所番号	893100040		
法人名	有限会社 幸や		
事業所名	グループホーム ゆい		
所在地	〒311-3145 東茨城郡茨城町大字上雨ヶ谷548 (電 話) 029-219-1122		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】 (平成20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 兼務 1人, 非常勤 4人, 常勤換算 3.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月10日現在)

利用者人数	4 名	男性 1 名	女性 3 名
要介護1	2 名	要介護2	
要介護3	1 名	要介護4	
要介護5		要支援2	1 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 77 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院 山口歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員全員で理念を共有するため、各自が目指す事業所の在り方を考え、「地域の中で暖かい絆を保ち自分らしく生き生きと暮らしたい」を理念とし、家庭的で安心して暮らせる支援を心がけている。
また、職員は利用者一人ひとりの個性や生活歴を把握しており、地域の中でその人らしく暮らせるよう、「結い」の語源のようにお互いに助け合いながら笑顔に包まれた生活を支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審につき該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価のねらいや活用方法について職員全員で話し合い、評価の意義を理解しているが、具体的な改善方法や評価を活用するまでには至っていないので、評価を職員の意識やケアの統一、振り返りの機会に活用し、サービスの質の向上につなげることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の人々や委員からの質問・意見や要望を受け、事業所の取り組みや改善課題を話し合っている。 事業所の存在は理解されているが取り組みや役割までは浸透していないので、今後、運営推進会議を通して地域の人々への理解を深める工夫を期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等から意見や要望を自由に出してもらえよう意見箱を設置しているが、活用するまでには至っていない。 家族会を設けて、家族同士の悩みや要望など、意見を出せる場面づくりを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域活動にはまだ参加していないが、利用者はもとより運営者や職員のほとんどが地域とのつながりを持っている。 今後は、事業所と地域の人々が支え合う関係を築くため、学校や地域の行事などに積極的に参加する機会づくりを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で意見を出し合い、住み慣れた土地で安心して暮らしが送れるよう支援することを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティングで、必ず理念について触れ、日々のケアに生かされているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動にはまだ参加していないが、利用者はもとより運営者や職員のほとんどが地域とのつながりを持っている。	○	事業所と地域の人々が支え合う関係を築くため、学校や地域の行事などに積極的に参加する機会づくりを提案する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法について職員全員で話し合い、評価の意義を理解しているが、具体的な改善方法や評価を活用するまでには至っていない。	○	評価を職員の意識やケアの統一、振り返りの機会に活用し、サービスの質の向上につなげることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人々や委員からの質問・意見や要望を受け、事業所の取り組みや改善課題を話し合っている。	○	事業所の存在は理解されているが取り組みや役割までは浸透していないので、今後、運営推進会議を通して地域の人達への理解を深める工夫を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行ううえで生じる運営上の問題や、サービスに関する課題など、市の担当者と連携し、地域の要望や高齢者に関する情報交換を行っている。	○	利用者や家族、職員等の意見や相談を受けてもらえるよう、市の介護保険相談員の派遣依頼を提案する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書を送る際、日頃の暮らしぶりを写した写真等を郵送している。 また、家族の面会時には利用者の状態や出来事などを報告・相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や要望を自由に出してもらえよう意見箱を設置しているが、活用するまでには至っていない。	○	家族会を設けて、家族同士の悩みや要望など、意見を出せる場面づくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、馴染みの職員による支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修は行っていないが、日々の体験やミーティングなどで日常的に学ぶことを推進している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流や情報交換の必要性を認識し、日々のサービス向上や職員教育に役立つ実践的な交流を心がけている。	○	同時期に開所した事業所や隣接する市町村の事業所との交流により、同じような悩みや課題を解決する機会を持つことを提案する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の相談や見学を受け入れている。利用者一人ひとりが安心できるサービスを受けられるよう、相談から利用に至るまで利用者本位の柔軟な支援を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや調理準備など、利用者の得意なことを発揮できるよう場面づくりを行うとともに、生活の技やしきたりを教えてもらうなど、共に支え合う関係づくりを心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握するため、じっくり会話することを心がけている。また、家族の訪問時にも意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の意向を聞くとともに、職員の意見、情報を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画は3ヶ月毎、長期計画は6ヶ月毎に利用者や家族の意見を踏まえて見直している。 見直した介護計画は、理解のできる利用者には本人と家族に説明するとともに、押印をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその時々々の状況や家族の要望に向き合いながら、暮らしを守るために必要な支援を行えるよう柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療が月2回受けられるとともに、利用者の変化や注意点について相談できる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院の医師と対応について話し合っているが、重度化や終末期に向けた方針を作成するにまでには至っていない。	○	安心した生活の中で、終末期の対応も出来るように、職員間の話し合いと研修を提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮している。 また、個人情報に関する記録類は事務室で大切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの暮らし方を大切に、本来持っているペースに合わせて柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、旬の野菜を取り入れた献立を一週間分ずつ作成している。 献立に基づき、収穫した野菜の下ごしらえやおやつ作りを利用者と一緒に行っている。	○	食事を通して利用者一人ひとりの力量を考慮した支援の在り方について検討することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2日の入浴日を決めている。 また、状況に応じていつでも入浴できるように支援している。	○	入浴は利用者一人ひとりの生活習慣と認識し、個別の対応ができる支援の検討を提案する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、手芸や食事の下ごしらえなど、日々の暮らしの中に得意なことを取り入れている。 また、お茶の時間はゆっくりと会話する機会をつくり、楽しく暮らせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調・気分に合わせて買い物を楽しんだり、天気の良い日は散歩やドライブに出かけるなど、自然に触れる機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけない自由な暮らしを利用者個々の立場に立って考え、日中は鍵をかけない支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による消防訓練を2回実施しているが、地域の方々の協力を得るまでには至っていない。 また、災害に備えて1日分のごはんと水を確保している。	○	今後、災害時に地域の方々からの協力が得られるようホームから働きかけることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や、畑で収穫できる食材を使った献立を一週間分ずつ作成している。 カロリー計算は行っていないが、調理師免許のある職員が栄養バランスを調整しながら提供している。	○	定期的に、市の栄養士に専門的な視点でチェックしてもらったり、地域担当の保健師に栄養バランス、水分補給状況などを相談、助言をもらうなどの関係づくりを提案する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の広いリビングに、ソファや食卓・移動式収納台を設置している。 天井の窓から差しやわらかな光や、窓から見える小鳥の様子など、利用者一人ひとりがゆったりと心地よい場所になるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して、馴染みのものや好みのものを置くなど個別に工夫している。 事業所で用意したベッドやダンスを使う場合でも、本人の意向を確認しながらその人らしい心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。